

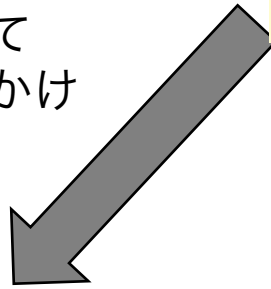
論文発表に関する最近の事情と  
業績評価のあり方、  
そして  
DORA署名について



研究者

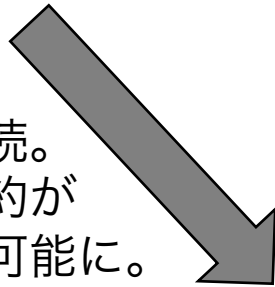
公共資金で行った研究なのに  
高いお金を払って論文投稿。  
出版社の圧力に従って  
多大な時間と労力をかけ  
追加実験。

研究結果



巨大出版社

お金を払って論文購読。  
高額のパッケージ契約が  
成立しないと購読不可能に。



論文の読者

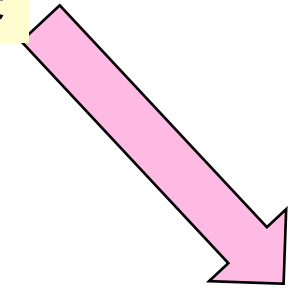
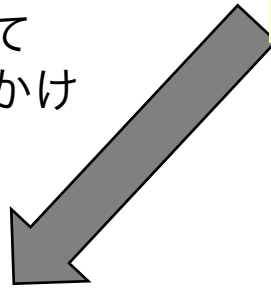
公共資金で行われた研究なのに  
アクセスできない  
高くて読めない  
、、



研究者

公共資金で行った研究なのに  
高いお金を払って論文投稿。  
出版社の圧力に従って  
多大な時間と労力をかけ  
追加実験。

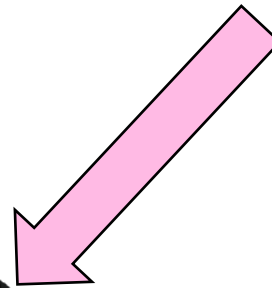
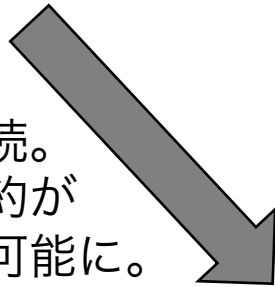
研究結果



巨大出版社

バイパスしたい！

お金を払って論文購読。  
高額のパッケージ契約が  
成立しないと購読不可能に。



論文の読者

公共資金で行われた研究なのに  
アクセスできない  
高くて読めない  
、、

# Plan S

- ・即座オープンアクセスを義務化する
  - ・著者が著作権を有する / オープンライセンス
- 2021年1月から始動

## By cOAlitionS

ヨーロッパ11か国の  
国立研究機関と  
Wellcome  
Bill Gates Foundation  
WHOなど  
(2022年1月からHHMIも)



研究者

公共資金で行った研究なのに  
高いお金を払って論文投稿。  
出版社の圧力に従って  
多大な時間と労力をかけ  
追加実験。

研究結果

さらに  
多額の  
投稿料  
(APC  
数十万円)

これが今  
大問題



巨大出版社

オープンアクセス  
ジャーナル

お金を払って論文購読。  
高額のパッケージ契約が  
成立しないと購読不可能に。

無料



論文の読者



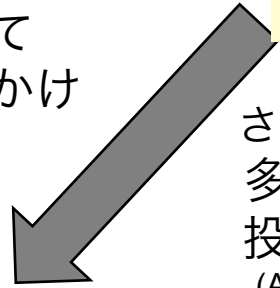
研究者

# Plan S

- ・即座オープンアクセスを義務化する
  - ・著者が著作権を有する / オープンライセンス
- 2021年1月から始動

公共資金で行った研究なのに高いお金を払って論文投稿。出版社の圧力に従って多大な時間と労力をかけ追加実験。

研究結果



巨大出版社

さらに多額の投稿料 (APC 数十万円)

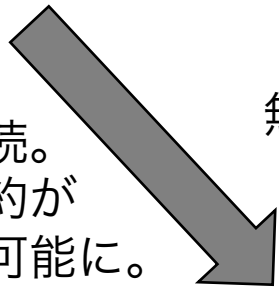
オープンアクセスジャーナル

無料

オープンアクセスの媒体

Preprint (bioRxiv, medRxiv)

お金を払って論文購読。高額のパッケージ契約が成立しないと購読不可能に。



無料



論文の読者

無料

論文の質が保証されないのが欠点

- ・雑誌と関係なく Peer reviewを受ける為の試み 例：Reviewer Commons
- ・論文掲載後に評価するシステムの構築

： Postprint Evaluation System  
例： F1000Research, eLife

そもそも

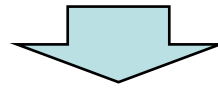
なぜ、出版社はこれほどまでに強くなってしまったのか？

# 生命系研究者の現実



評価者

「良い雑誌」に論文を出している人に、  
研究費・職・昇進のチャンスを与えよう



キャリアや研究が続けられるか  
かかっているし、

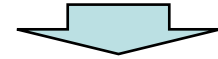


研究者

できるだけ「良い雑誌」に論文を出したい

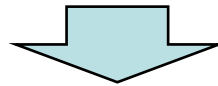
競争を勝ち抜いた

優れた論文が集まり「良い雑誌」がさらに強くなる



「よい雑誌」  
の出版社

強い権限を使って、研究者にたくさんの実験を要求。  
高い購読料、掲載料も要求。



論文掲載まで多くの時間と労力がかかるが  
「良い雑誌」に載る保証がない



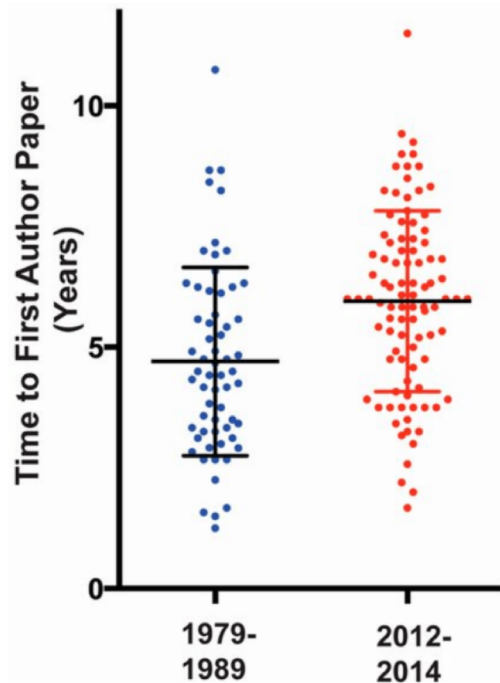
研究者

**研究者の疲弊、若者のアカデミア離れ、捏造／不正の頻発**

# 生命系の際立った事情

分野にもよりますが

ひとつのプロジェクトを開始してから  
雑誌にpublishするまでに非常に長い時間がかかる（平均6年！）



化学系：1～5年くらい？かつ複数プロジェクトが普通？  
数学、物理系：そもそも論文は雑誌にpublishする必要がない  
(Rxivで業績として認められる)

博士課程3年では間に合わない

昇進の審査期間5年では間に合わない

研究費期間2～3年では間に合わない

From Vale 2015  
ASAPbio homepage

出版社のリクエストに応じて  
追加実験を成功させ、アクセプトさせなければ  
という強いプレッシャー



# 生命系研究者の現実

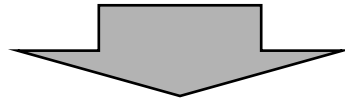


評価者

この根本を変えたい！！

「良い雑誌」に論文を出している人に、  
研究費・職・昇進のチャンスを与えよう

評価基準が「論文の中身」ではなく  
「掲載された雑誌のランク(IF等)」になってしまっているから  
「ランクの高い雑誌」の力が強くなっている



評価基準を  
「本来あるべき姿：それぞれの論文の内容で評価」  
に戻したい！



**San Francisco Declaration on Research Assessment  
(DORA) の登場**

# 研究評価に関するサンフランシスコ宣言 San Francisco Declaration on Research Assessment (DORA)

2012年12月の米国細胞生物学会（ASCB）の際に、  
世界各国の生命科学研究者、雑誌編集者／出版社が集まり  
起草した宣言（勧告）（<https://sfdora.org>）

・ 個々の科学者の貢献を査定する際、  
すなわち雇用、昇進や研究費助成の決定をおこなう際に、  
個々の研究論文の質をはかる代替方法として、  
インパクトファクターのような雑誌ベースの数量的指標を  
用いないこと

- ・ 科学者の貢献として、論文以外も考慮すること
- ・ オープンで公平な審査を行うこと（審査基準の明示性／透明性）

勧告の対象者は：助成機関、学術機関、個々の研究者、  
学術雑誌、数量的指標を提供する機関

しかし未だに日本の大学およびFunding Agencyは  
ひとつもDORAに署名していない！

DORAにサインした大学／研究機関の例

University of Cambridge

University of Oxford

2021.5月時点世界の2217機関が署名  
(半数以上がこの1年間に署名)

欧州の研究大学連合であるLERUも2015年に署名  
(The League of European Research Universities)

DORAに署名したFunding Agencyの例

UK-Cancer Research UK, Wellcome Trust

France - ANR, the French National Research Agency

EMBO

Howard Hughes Medical Institute

Bill & Melinda Gates Foundation

DORAにサインした出版社の例

Springer Nature Group

Elsevier

しかし未だに日本の大学およびFunding Agencyは  
ひとつもDORAに署名していない！

「自分は当然、論文ごとの価値を評価している」と考えるシニア研究者は多い。  
しかし！

若手研究者は「雑誌のランクで評価される」ことを前提として  
涙ぐましい努力しているのが現実。  
(研究の中身で評価するという**当然なことが当然になっていない**)

アカデミアが、自ら「どうあるべきか」を  
発信すべきではないか

DORA署名はその「姿勢」を明示的に公表するという点で  
内外に対して有効な手段

## Q. DORAに署名したことでどの程度の拘束力があるのか？

DORAへの署名はあくまで宣言（提言）であって拘束力はない。  
問題意識を喚起する段階、  
実際に研究成果評価に生かしていく段階、  
他の研究者コミュニティに広げていく段階、  
どの段階であっても署名は有効であるという考え方である。

by Anna Hatch (DORA, program director)

## Q. Journal impact factorなど雑誌ベースの評価は一切使ってはいけないということなのか？

- ・分野外の審査や大量の審査において、定量的・数量的な指標が有用であることはある程度仕方ない。
- ・人脈や学閥、マイノリティ差別等、不公平な要素を排除する為に「客観的な」数量的な指標を用いた方がよい場合もある。
- ・ただし雑誌ベースの評価を用いる場合であっても、その限界をよく理解した上で、あくまで「限定的」「補助的」に用いるべきである。

**DORA署名でこの姿勢を示す！**

- ・雑誌ベースの評価（Impact Factorなど）や単純なcitation indexは欠点が多いので、**より信頼のおける論文ベースの定量的／数量的評価法の確立が急務。**

# まとめ

## 研究評価に関するサンフランシスコ宣言（DORA）について

「なぜ、今、あえて同宣言へ署名を行う必要があるのか」

- ・ ランクの高い雑誌がさらに権力を増す構造から年々研究者の疲弊が増し、我慢の限界に達している。今、何か動かないといけない状況である。
- ・ この状況を踏まえ、この1-2年で世界的にもDORA署名の動きが広がっている。（日本も良いspiritを先導したい！）

「同宣言に記載していることは当然のことではないか」

- ・ 生命科学系では、必ずしも当然ではない。採用審査にJIFとcitationの提出を求める（あるいは内部的に算出して用いている）場合はかなり多い
- ・ シニアが当然だと思っけていても、若手研究者は雑誌のランクが評価に大きく関わると考えている現実。



若手研究者を救い、  
希望を持たせるのは  
日本のアカデミアの責務では？  
(そのためのひとつの具体策がDORAへの署名)



研究者



研究者

研究者の疲弊、若者のアカデミア離れ、ねつ造